

部が賣られて、流通場裡に移轉するといふ事も、又は生産物を其價值通りに賣るといふ事も、其社會の經濟組織に取つては、左程に重要なことではないからである。更にまた、斯やうな仕時の生産方法の下では、商人の取引の相手となるべき剩餘生産の主たる所有者は、即ち奴隸の所有者であり、封建領主であり、國家（例せば、東洋の専制君主）であつて、彼等は、富と奢侈品とを代表するものであつた。そしてアダム・スミスが正確に勘づいてゐた如く、是等の富と奢侈品こそ、商人が仕止めようと狙つてゐるものであつた。そこで此結果としても、商人は、剩餘生産の大部分を自己の有とするやうになつた……至上權を掌握した商人の資本は、到る所に掠奪制度を擁護した。そして舊時代と新時代との、商業國民の間に於ける商人の資本の發達は、常に劫掠、海賊、奴隸の捕獲、殖民地の征服と關連して居る。カルセーデを、羅馬を、そして近くはヴェニス人、葡萄牙人、波蘭人等を看よ。』(註二)

貨幣の流通は、何處に於ても、貨幣の蓄積を伴ふて居る。そして今度は、貯蓄せられた貨幣は、利息を生む資本として、自己獨特の流通形態を取るものである。商人の資本と利息を生む資本とは兩つながら、一度び其標本的の形態を取ると、次から次と、種々なる異なつた生産形態に適應してゆくが、舊社會の分解が近世資本家の勃興を來した所では、終には、工業資本の支配下に歸するものである。

流通界の支配者としての、商人の資本は、その直接支配以外の生産者の、生産物を搾取するものである。然るに生産界の支配者としての、工業的資本は、其雇人の勞働力を、他の商品と同じく一

般市場に買入れ、其雇人を直接生産界に於いて搾取し、そして流通界を自己の支配界に服せしめ従る事によつて、工業的資本の蓄積を唯一の目的として、生産を營むものである。此二つの資本は、重要な資本の二形態であつて、各々異りたる歴史的時代と、異りたる社會制度との特徴を爲すものである。ところが、此二つの類型の相異に關する記述は、支配階級の經濟學者等が、正直にして欺かれ易い學生の前に、真正の科學と銘を打つて差出して居る思想のうちには、決して見出すことができないのである。(E. Untermann, 山川均)

註一、二、にマルクスが「生産物の價格」を云つて居るのは、生産費と平均利潤とを加へたものである。
註二、マルクス資本論第三卷英譯第二十章。

本誌第六號目次

マルクス主義の經濟學
共産制より資本制まで
キルト社會主義貨幣制度觀
社會主義と進化論との關係
新刊 書 批 評

本誌 月廿五錢、三月分七十錢
半年分税共金一圓卅五錢
定價 一年分税共金二圓五十錢

大正八年十一月一日印刷納本
大正八年十一月四日發行發賣
東京市芝區新櫻田町十九番地
發行所 平民大學
(載轉禁)
振替東京三三三七〇番
爲替「芝櫻田郵便局」
電話新橋四二〇七七番

東京市芝區新櫻田町十九番地
發行人 山崎今朝彌
編輯人 自由活版所
印刷所 自由活版所
東京市芝區新櫻田町十九番地
印刷人 岡 千代彦